

二〇一九年三月一五日

踏青の林道に遇ふ十字墓
地虫出てにぎやか子らの秘密基地
涅槃西風古墳の胎の静寂かな
梅が香の通ふ御堂に法話聞く

せいじ
菜々
宏虎
はく子

二〇一九年三月一四日

玻璃内へ春の日差しや大湯殿
春潮に磯中着のフラダンス
両頬へ子のキスぬくしホワイトデー
もんしろ蝶現れて園児の列乱る
舫ひ綱張りては弛む春の波

やよい
智恵子
なつき
素秀
董雨

二〇一九年三月一三日

つばくろの相さし交はす影疾し
御目伏す坐像の膝の春埃り
少し開くビニールハウス春日燦

素秀
よし女
明日香

二〇一九年三月一二日

杖数多されて古木の梅匂ふ
春疾風火葬煙を吹き散らす

たか子
やよい

二〇一九年三月一一日

城山の麓を染めて花菜畑
春田へと踏切待ちす耕運機
大風車ま向く海峡風光る
山笑ふ開通待てるアーチ橋

せいじ
こすもす
素秀
海潮音

二〇一九年三月一〇日

予定なき雨のひと日や春炬燵
巣箱にはへのへのもへじ山笑ふ
苗木植う海を見下ろす新校舎

満天
たか子
さつき

二〇一九年三月九日

あたたかや野路の仏に供花あふれ
春燈のグラスに透かすロゼワイン
島の子は海を蹴るごと半仙戯

菜々
うつき
さつき

毎日句会みのる選・二〇一九年三月一七日